

る。直線状の道路であって誤りやすいのは放射街路である。満州の新京（長春）やパリで道を一筋とり違えたために大損をしたことがある。6月に訪れたカルルスルーエもバロック式市街で、宮殿を中心に放射状の道が走るが、マンフォードは、「都市の歴史」の中で放射は防衛のためだとはっきり書いている。

ヨーロッパの街もアメリカの通りも、名前がついて、中心から離れるに従って番号が増える。その上、家の扉には大きく番号が書かれているので、言葉が通じなくとも、宛名さえ正しく知っていれば目的地にたどりつける。日本では地番が改められたが、必ずしも家々には大きく表示していない。八百屋の角を曲って右へ三軒目の横丁などと言われても、そこへ行くまでは分からない。私は目的地の近くまでたどりつくと、目星しい建物の傍の公衆電話でどのように行くのですかと聞くことにしている。あるとき電話をかけたら僅か三軒目の隣であった。

新しい町名地番表記も街区（ブロック）式であるために、地図を持たぬ人には不親切である。丁目も地番のつけ方は行って折返す式であるから、どこまでどの方向に進むのか？番号が全体で何番まであるのか？そのようなつまらぬことで足を棒にする。最近はおもな交叉点の信号に地名が書かれて便利であるが、市販の地図には町名はあっても地点名や歴史的に有名で人々にも愛用された町名が書いていない。例えば「溜池」と言う交叉点を探してごらん下さい。

これらの点で、京都市は道路が碁盤割で、通り名があり、四条烏丸上ル、下ル、東入ル、西入ルで、目をつぶっていても地点と街区が理解できる。その上に、東山、北山が見え、五重塔が立ち目標となるものが多い。平和な古都はさすがである。

公害をできるだけ少なく

大和田 順 子

今年は学園内の銀杏の紅葉が見事なほど美しい。やわらかい秋の日ざしを浴びて、美しく黄ばんだ銀杏のこんもり茂っている様子を見ると、秋の深まりを感じ、今更の如く学園も美しいなと思う。黄ばみかけた銀杏の葉の葉脈にまだ青味を残しているのも可愛らしい。一枚二枚ハラハラと舗道に散りしいてゆく様子もあわれである。この様に紅葉が美しいと、やがて来る木枯の吹き荒ぶのを止めたいような気持になる。

さて、今年の紅葉がこんなに美しく立派だったのは、例年になく寒さが早く来たためなのか。そ

れとも、東京の空が少しずつでもきれいになってきたためなのだろうか。もし前者であれば、自然の変化の妙味で、時には美しく、時にはみにくく紅葉してゆくので、今年はたまたま美しい紅葉となったせいであろう。しかし、もし後者だとしたら、東京の空から塵埃やスモッグなどが少しずつではあるけれど少なくなってきたため、植物なども四季折々に応じての自然の変化が普通に行えるようになってきたためであろう。今までの東京の空は、工場から吐き出す煤煙や亜硫酸ガスまたは自動車の廃気ガスなどで、大気の汚染はすさまじく、舗道の並木も立枯寸前になるし、金木犀など大気汚染に弱い樹木は花を咲かせなくなっていた。それに植物の四季の変化の現象である紅葉も、空気の清澄な所に見られる様な冴えた赤い色に変色しないで、赤茶けたひねた褐色に変色しては落葉して行った。

しかし、最近の公害に対する国民の関心のたかまり、とくに1970年代は公害との対決の時代であるといわれているほどに公害問題は国内的にも国際的にも深刻化している現状にかんがみて、大気汚染、水質汚濁、土壌の汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭などの公害すべて許すまじの国民大衆の姿勢は、国の方針や企業の経済活動にも少しずつ変化を与えてきているのではないか。そして、それが東京の空を少しでもきれいにし、もとの青空に戻しはじめてきたのではないか。だから紅葉も美しく変化したのだろうと思う。そうだとすると国民の側の意識のたかまりが、国民の側の手をつないだ運動が、国の政策や企業の経済活動のあり方を変える原動力となっているわけで、いわば国民が手を取り合うことこそ大きな力となるのだと思う。

かつては「霧のロンドン」といわれ名物となっていたロンドンの霧も、最近はその発生が少なくなり、ロンドンの空はきれいになってきたとか。わが国でも八王子市に端を発するノーカー運動が、今度は三多摩地区で、やがては全国的な規模で行なわれるようになるだろう。またゴミ公害の発生を少なくするためにノー包装運動を行なったりする。こうして国民の側からも公害防止のために積極的に協力する。そして、少しずつではあるけれど、できるだけ公害の発生を少なくし、住み良い東京を、また住み良い日本を建設してゆくことが大切である。まだまだ私達の周囲には、問題がたくさん山積しているのだから。

切手をはる趣味

吉 野 正 敏

切手を集める趣味の人は多い。私は元来、切手を集める趣味はなかった。今もないというべきで